

おわりに寄せて

私たちのサークル活動やこの本を書こうと思った経緯は、英国にお住まいのムーア夫人へ差し出した手紙に記されていますので、それを掲載させていただきます。

September 3, 2001

Dear Mrs. Moore

My name is Makoto Kammoto and my wife is Hisako. I am working for a Japanese trading company and my wife stays home. We have been teaching ballroom dancing in a local circle at a community centre for twenty-two years by now. Both of us passed 'associate' exams but we do not belong to any professional associations in Japan nor enter competitions but purely devote to the circle activity on weekends as hobby. We are now planning to publish a dancing book at our own expense in commemoration of our activity and to take form of our lifework. And we are writing this letter today to ask you to kindly give us your helping hand to realize our dream.

My wife started her ballroom dancing career as an amateur at Phyllis Hayler's in 1972 and had lessons from Mr. Leonard Patrick for nearly three years. Her wish to acquire "real" British style from the very beginning took her to London at the time when amateur dancers from Japan were still very sparse. I met her in London but knew nothing about ballroom dancing then. We came back from London together in spring of 1975. When we married in 1979 we made up our mind to make a circle, like a night school class in London, in the town we lived. There were two major reasons for it:- because lesson fee in Japan was expensive especially for youngsters and we wanted to give opportunities for them at low cost, and there was a strong sense of mission in my wife to pass what she learned from Mr. Patrick and Phyllis Hayler's through the activity.

That was the year, I started dancing and also our first baby was born. Five years later, we had a second baby. So, our circle activity in the first seven years was always with milk and napkins with our dance shoes. We felt through the activity a need of a handy and friendly book for beginners and intermediates and it became a trigger to write the first page of our book fifteen years ago - from group lesson instructors to its students, not so much professional like Revised Technique but good enough for circle people to use for years. In our case, we had a 'Ballroom Dancing' we brought from London but there was not such an excellent book in Japan at that time.

The manuscript of our book was finally completed in February this year. It is full of hints and encouragement in our own words and our original foot diagrams. But we think we should ask for your permission before publishing as it is of no doubt that a lot of influence was given by the Ballroom Dancing.

For that purpose, if you would not mind, we would like to pay a visit to you and show our manuscript to have your understanding and/or to discuss what is necessary to make our dream come true and we would like to ask you to kindly spare time for us. If you could advise us your schedule in the rest of September, October and November, we would arrange our schedule for it.

We look forward to hearing from you shortly.

Truly yours,

Makoto & Hisako Kammoto

【訳文】

親愛なるムーア夫人、

私の名は神元誠、妻は久子と申します。私は日本の商社に勤務し、妻は主婦として働いています。私たちは地元の公民館で22年間社交ダンスを教えています。二人とも”アソシエイト”の（ダンス教師資格）を通りましたが、プロの団体には所属しておりませんし競技会にも出ておらず、純粋に興味として週末にサークル活動に専念しております。私たちは今、サークル活動の記念に、そして自分たちのライフワークを形として残すためダンスの本の出版を計画中です。そうした私たちの夢の実現にあなのお力をお貸しいただきたく、本日この手紙をお出しする次第です。

妻は1972年、アマチュアとしてのダンスをフィリス・ヘイラーさんの教室で始め、約3年間レオナルド・パトリック氏のレッスンを受けました。当時、日本からのアマチュア・ダンサーは非常にまれでしたが、彼女は「本当の」英国スタイルを学びたいと言う願望からロンドンに赴いたのでした。私はロンドンで彼女に知り会ったのですが、当時ダンスのことは何も知りませんでした。1975年春、二人で帰国し1979年結婚したとき、地元でロンドンのナイトスクールのようなサークルを創る決心をしました。それには二つの主な理由がありました。一つは、日本におけるダンスのレッスン代がとりわけ若者には高く、若者たちに安くレッスンを受ける機会を与えたいと思いました。もう一つは、フィリス・ヘイラーさんの教室でパトリック先生から教わった事を、サークル活動を通して伝えなければいけないという強い使命感が妻にあったからです。

その年に私のダンスが始まり、それは一人目の子供ができた年でもありました。5年後に二人目を授かりましたので、初めの7年間はダンスの靴とミルクとオシメが常に一緒でした。サークル活動をして行くなか、初心者や中級の人向けの手軽で親しみやすい本が、～団体レッスンのインストラクターから生徒に対する本で、リバイズド・テクニークほど専門的でなく、かつ、サークルの人たちが何年も使えるような～そんな本があるといいなと思いました。私たちにはロンドンから持ち帰った「ボールルーム・ダンスイング」がありましたが、当時そのように秀れたダンスの本が日本にはなかったからです。それがきっかけで初めの一頁に着手したのが15年前のことです。

本原稿は今年の2月に完成しました。それは自分たちの言葉によるヒントや励ましの言葉で埋め尽くされており、足型も独自のものですが、出版に先立ちあなたの許可を戴くべきと思います。なぜならボールルーム・ダンスイングから多くの影響を受けたことはまぎれもない事実だからです。よろしければご理解をいただくためそちらに伺い、私共の原稿を見ていただきたく存じます。そして私たちの夢の実現に何が必要かを話し合わせて戴きたいと思いますので、ぜひお時間を割いてくださいますようお願い致します。9月、10月、11月でご都合のよろしい日をお知らせくだされば、それにあわせてお伺い致します。

ご返事をお待ち申し上げます。

敬具

神元 誠・久子

*後日この手紙に対する返事はお嬢さん（ホープさん）から戴きました。それにはお母様がお年で具合が悪く、代わりに返事をするよう頼まれたとあり、ご親切に何かあれば気楽にコンタクトしてくださいと結ばれていました。私はその手紙と原稿を手でロンドンへ飛び、9月27日、ご自宅で彼女とご主人にお会いすることができました。お二人は私を暖かく迎え入れ、熱心に私の話を聞いてくださいました。序文は、ホープさんがこうした経緯の中で書いてくださったものです。

*

*

*

「サークル仲間に本を」との思いでペンを取ってからずいぶん長い年月がかかりました。説明の一語一句に対し、サークルレベルでわかりやすく、かつ、正確に表現できているか何度も推敲し、疑問が起きたときは回答を求めてできるかぎりの資料を調べながら話し合いを重ねました。足型図においては、ひとつひとつを手作業で起こしましたので本当に気が遠くなるような作業でした。しかし、振り返ると不思議なことに一度もやめようと思ったことはありませんでした。

今こうして印刷を待つばかりとなったものを手に取ると、仕事や家事、出産、育児、そしてサークル活動の合間をぬって費やしてきた膨大な時間を、夫婦で共有できたことが宝に感じられます。

最後に、誕生から現在に至るまで私たちの活動に深い理解を示し続けてくれている娘たち二人に深く感謝します。

2002年8月

神元 誠・神元 久子